

.....

うきたむ考古通信

.....

2026年4月号

■発行者	うきたむ考古の会
事務局	山形県立うきたむ風土記の丘考古資料館 内
	〒992-0302 山形県東置賜郡高畠町安久津2117
	電話0238-52-2585 Fax 0238-52-4665

♥令和8年度の館事業運営体制

●令和8年度の考古資料館職員体制が決まりました。昨年度と変更なしで、館長（渋谷孝雄）、学芸員（伊藤純子、松本恵美）事務職員（木村由紀子、鈴木昌明）が昨年が続いて勤務することになります。また、館長代理も小林貴宏（高畠町教育委員会社会教育課課長補佐）で変更ありません、6名体制で8年度事業に臨むこととなりますので、どうぞ、よろしく願いいたします。

令和8年度の館事業について

♥展 示

●常設展示

展示品の変更はありません。ただし、草創期の日向洞窟及び西地区について、順番を変えて展示しています。

●特別テーマ展

「考古資料に見る文字資料」

6月6日(土)～8月16日(日)

文字という、視覚情報として入ってきやすいものをテーマとして取り上げることで、考古学に馴染みのない一般の人にも分かるような展示とする。また、古代から近世までの歴史の流れの中における記録媒体の変化に伴い、文字資料がどのように変化していったのかが考古資料から分かるような展示構成にしたい。

また、会期中に「特別テーマ展関連講座」を2回開催する。

※学芸員による特別テーマ展の内容の解説と展示室の案内を行う予定。

展示構成は以下のとおりとする。

序 章「文字の始まり」

日本での文字の起こりを概説し、全国から見た最古級の発掘された文字資料の紹介（写真パネル）。

山形県内で出土した文字資料の始まりを紹介する。

日本での文字というのは、言うまでもなく中国から渡ってきた漢字を使用するようになるのが始まりである。中国では甲骨文字、金石文、木簡・竹簡（簡牘かんとく）・帛書、紙と記録媒体が変わっていき、新しい記録媒体が使用されるようになると、古い記録媒体は使用されなくなる。

中国など大陸では、木簡や竹簡などの簡牘から紙へ記録媒体が変容していく中、日本では紙と並行するように木簡が使われていた。用途に応じて使い分けていたようである。経典など長文を記すのには紙を用いたが、荷札のような小型のものや、小刀で削れば修正できるので、後から修正が必要になるような文書や、文字の練習などにも用いていたようである。

県内では、置賜郡の郡衙が置かれていたと目される、高島町の大在家遺跡及び隣接する町尻遺跡の出土資料から、古くから中央政府とのやり取りがあったことを窺わせる。出土した木簡及び文字に関わる資料を県内から出土している最古級の文字資料として紹介する。

展示遺跡：高島町：大在家遺跡、町尻遺跡（7世紀代のものと目される木簡、他）

第1章「古代の文字資料」

古代における文字というのは、役人や僧侶など特定の身分の者により記されてきた。また、中国や朝鮮から経典と共に伝わってきた経緯から、仏教との関わりが強い。そのことから役人の記した文字として「文書木簡」（官衙遺跡を中心に）、僧侶または陰陽寮の役人など中央の政府が主導になって行ったであろう宗教的儀式（まじない）に関わる資料として「呪符木簡」、他荷札として使われた付札木簡（文書木簡や題箋軸の荷札への転用なども含む）の3つに分けて展示する。木簡が中心であるが、墨書土器などの展示も行う。また、県内でも珍しい米沢市の大浦B遺跡から出土した漆紙文書の紹介も行う。

展示遺跡：米沢市：大浦B遺跡（漆紙文書）、古志田東遺跡、馳上遺跡 山形市：今塚遺跡、梅野木前遺跡 川西町：道伝遺跡 遊佐町：大坪遺跡、上高田遺跡 鶴岡市：山田遺跡

第2章「中世の文字資料」

記録媒体としての木簡から紙への完全な移行時期というのは定かではないが、平安時代末（10世紀末）には木簡の使用というのは稀になってくる。記録媒体としての役割は紙が変わっていき、木簡の利用は荷札などに限られてくるようになる。（木簡から木札に変わる）

また、平安時代末から末法思想などにより、来世での救済を考え、人々は様々な形で供

養を行った。しかし、紙は時間の経過と共に風化してなくなってしまう。経典などが少しでも長く後世に残るように工夫した。例えば、経塚のように経巻を埋めたり、または石に記した一字一石経などがある。また、

板碑のように石に刻みつけた供養塔というのも、後世まで残そうという意図のもと作られたのであろう。そういったことから、中世の出土する文字資料としては、信仰に関わるものが多い。

この章では、平安時代末から中世にかけて盛んにつくられた経塚からの出土品、中世の供養の儀礼である笹塔婆流し（流れ灌頂）、板碑等、中世の人々の信仰に関わるものの中から紹介する。

展示遺跡：白鷹町：笠松山経塚（経巻の残欠（翻刻できたものの紹介）、経筒、外容器、）
天童市：高野坊遺跡（多字一石経） 鶴岡市：後田遺跡（笹塔婆） 高島町：大在家遺跡（板碑）

第3章「近世以降の文字資料」

近世以降は、庶民にも文字が広まり、多くの文字資料が残されるようになる。よって、出土する文字資料も多く、また多岐に渡る。今回は中でも城郭から出土したものに着目して紹介する。

展示遺跡：酒田市：亀ヶ崎城 山形市：山形城（荷札木簡、年号の記された瓦、瓦職人の落書等）

● 発掘ガール展—スコープの先にあるもの—

郡山女子大学短期大学部地域創生学科との共催

8月22日(土)～9月27日(日)

郡山女子大学短期大学部による旧石器時代から古代の会津若松市笹山原遺跡の発掘調査・整理の様

子と成果を女子大生目線で展示する。考古学入門には最適の展示となる予定。

展示解説：9月5日（土）13時から郡山女子大学短期大学部専攻科文化学専攻学生と會田教授による展示解説を実施

展示品：会津若松市笹山原遺跡の旧石器・縄文時代・古代の出土品他

● kid' S 考古学新聞コンクール全国巡回展

6月初旬～9月下旬

令和7年12月1日に審査結果が発表された「第6回 kid' s 考古学新聞」の入賞作品の巡回展。

今年度も開催する。

● 企画展示 第34回企画展「加藤稔先生と山形の旧石器」

10月3日(土)～令和9年1月31日(日)

※東北地方の旧石器研究を切り開いた故加藤稔先生の調査資料が当館に寄贈された。

この資料を中心とし、山形県内の旧石器時代の出土資料を展示する。

企画展開催中に、考古学セミナー、企画展講演会などの関連企画を実施して理解
関心の向上に努めるとともに、展示図録を刊行する。

展示構成は以下のとおりとする。

序章 加藤稔先生の生涯・研究業績

加藤稔先生の出生から山形大学編入、山形大学での学生時代・発掘調査参加歴、高校
教員として東根高等学校在職中の旧石器を発掘と研究、山形県立図書館在職中のナイフ
形石器を持つ石器群の調査と研究、山形県立山形中央高等学校在職中の前期旧石器の探
求と後期旧石器の発掘継続、山形大学非常勤講師就任以降の細石刃文化・尖頭器文化・
及びナイフ形石器の調査と研究、山形県立山形南高等学校・山形県立博物館在職中の研
究、東北芸術工科大学教授就任後の調査と研究を図表と写真で振り返る。また、東北地
方で最初の旧石器時代の調査となった**越中山A遺跡**の石器を展示する。

第1章 前・中期旧石器の可能性

1968年の飯豊町上屋地遺跡の調査と前・中期旧石器研究—**上屋地遺跡・明神山
遺跡の資料を展示。**

第2章 後期旧石器時代前半期の遺跡調査と山形県内の出土資料

1972年**小国町岩井沢遺跡**で前半期の石器を発掘、採集資料であった**大石田町笹
山遺跡**の資料も含め当該期の資料を評価。2000年以降、加藤の指導で渋谷
が発掘した**遊佐町懐ノ内F遺跡**、東北大学総合学術博物館の柳田俊雄外によ
る**真室川町の丸森1遺跡**（公財）山形県埋蔵文化財センターによる**村山市清
水西遺跡**、**遊佐町水林下遺跡**の資料も展示。

第3章 後期旧石器時代後半期のナイフ形石器

第1節 東山型ナイフ形石器を持つ石器群

東山型ナイフ形石器は1962年に佐々木洋治が小国町東山遺跡で採集したナ
イフ形石器に小林達雄が命名したものであるが、小国町の東山遺跡の同年・
及び翌年の試掘調査では1次的な包含層を捉えることはできなかったが、
加藤は発見された翌年に新庄盆地の東山と称される横前遺跡で当該石器群の
発掘に成功した。この石器群は東山型ナイフ形石器と縦形搔器、小坂型彫刻
刀形石器で組成される石器群で、その後、加藤による山屋遺跡、新堤遺跡の調
査に続き、1970・80年代には長澤正機による南野遺跡、山屋A遺跡、乱馬堂
遺跡の何れも新庄盆地の遺跡で当該期の資料の集積が進んだ。西川町お仲間
林遺跡では慶應義塾大学の阿部祥人による2回の発掘調査と（財）山形間埋蔵
文化財センターの発掘調査で当該期の石刃製作を示す好資料が得られた。**横
前遺跡・新堤遺跡・乱馬堂遺跡・上ミ野A遺跡、お仲間林遺跡**等の資料を展
示。

第2節 国府型ナイフ形石器、二側縁加工ナイフ形石器を持つ石器群

加藤による1967年に始まる越中山K遺跡の調査で瀬戸内技法を技術基盤に
持つ石器群が出土し、1978年の西川町弓張平B遺跡の調査では二側縁加工の
ナイフ形石器をもつ石器群が出土した。その後、長井市川井山遺跡、新庄市上
ミ野A遺跡等でも二側縁加工のナイフ形石器が出土している。**越中山K、上
ミ野A遺跡**の資料を展示。

第3節 金谷原型ナイフ形石器を持つ石器群

加藤による1957年の予備調査を経て、1961年に1次、1964年に2次、1992

～96年に寒河江市金谷原遺跡の発掘調査が行われ、石刃技法を基盤とし基部加工のナイフ形石器が中心となる石器群が検出された。**金谷原遺跡**の資料を展示。

第4節 杉久保型ナイフ形石器を持つ石器群

加藤による1960年の発掘調査で杉久保型ナイフ形石器と神山型彫刻刀形石器で組成される石器群で、その後、単発的な出土があったものの、纏まった資料の発掘がなかったが、2013・14年の鹿又喜隆による新庄市白山E遺跡、2015・16年の白山B遺跡の発掘調査で、この組成を持つ石器群が得られている。**横道遺跡、白山E・B遺跡**の資料を展示。

第4章 尖頭器とナイフ形石器を持つ石器群

加藤による1961年の小国町平林遺跡で両面加工尖頭器、ナイフ形石器、彫刻刀形石器と多量の搔器からなる石器群が検出された。また、1967年、73・74年には越中山A'遺跡の発掘調査が行われ、両面加工・周辺加工尖頭器、ナイフ形石器、彫刻刀形石器からなる石器群が検出された。1986年から98年にかけて慶應義塾大学の阿部祥人の西川町上野A遺跡の5次にわたる発掘調査でも両面加工尖頭器、ナイフ形石器、彫刻刀形石器、搔器で組成される石器群が出土した。**平林遺跡、越中山A'遺跡**の資料を展示。

第5章 細石刃を持つ石器群

山形県内では細石刃核の採取があったものの、加藤の長年の追究にも拘らずなかなか捉えることができなかったが、1970年夏に大石田町角二山遺跡で肘折パミスの下位から細石刃石器群が検出された。札骨型細石刃核、細石刃、荒屋型彫刻刀形石器、搔器等で組成される典型的な湧別技法札骨型の細石刃石器群であった。加藤は同年秋にも越中山S遺跡で細石刃石器群を検出し、翌71年の発掘調査でホロカ型細石刃核、細石刃、彫刻刀形石器、搔器の組成を持つ細石刃石器群を發掘した。さらに、72年秋には野口一雄が小国町湯の花遺跡で甲板面に擦痕のある黒曜石製の細石刃核を採取したことが契機となり、同遺跡にも細石刃石器群があることが判明し、翌73年4月の加藤の発掘調査で湧別技法白滝型の細石刃石器群と東山型ナイフ形石器を持つ石器群が出土し、1979年に2次、85年に3次調査が行われ、資料が集積した。**角二山遺跡、越中山S遺跡、湯の花遺跡**の細石刃石器群を展示。

第6章 両面加工尖頭器、有舌尖頭器、局部磨製石斧、片刃石斧を持つ石器群

土器出現期の石器群でかつては中石器時代、晩期旧石器時代等と呼ばれていたが、現在では土器が出現した時代ということで縄文時代草創期という時代呼称が定着してきた。草創期は年代的には16,500年前から11,500年前の5,000年間に及ぶが、このうち16,500～15,500遡源期と呼ばれる時期は、土器が伴ってもきわめて少なく、多くの遺跡では土器が伴わない石器群で構成される。1957・58年に加藤が調査した高畠町尼子第II岩陰遺跡第6文化層、1971・72・73年に調査した飯豊町上屋地A遺跡、山形県の委託を受けて1976～78年に調査した西川町弓張平B遺跡の上層、八幡町教育委員会が主体となり佐藤禎宏が1996～2002年に調査した八森遺跡桑園地区の各石器群が該当する。1958年の東北地方で最初の旧石器時代の調査として著名な越中山A遺跡もこの時期の所産の可能性が高い。これらの遺跡では土器の出土はない。**尼子第II岩陰第6層、上屋地A遺跡、八森遺跡**の資料を展示。

♥自主事業

👉体験事業

1. ものづくりを通して考古学に関心を持ち、知識向上や達成感にもつながる体験事業を行う。

(1)「親子で手形をつくろう」

5月2日(土)～6日(水)

目標 700 個(令和5年度 673 個、令和6年度 564 個、令和7年度 467 個)

※5月3日(日・祝日)、5月4日(月・祝日)、5月5日(火・祝日)、5月6日(水・振替休日)を臨時開館日とし、条例に基づく5月5日(火)の無料開館日の振替えとして5月7日(木)を臨時休館日とする。

(2)「勾玉・弓矢・石器をつくろう」

7月4日(土) 11月3日(火・祝) 2回 目標 50名(令和7年度 46名)

※11月3日(火・祝日)の無料開館日の振替えとして11月4日(水)を臨時休館日

とする。

(3)「ガラス玉をつくろう」

6月13日(土) 11月14日(土) 目標 21組(令和7年度 21組)

(4)「コースターをつくろう」(簡易織機、あんぎん台使用)

6月20日(土) 11月28日(土) 目標 15名(令和7年度 11名)

(5)「古代風ブレスレットをつくろう」

6月20日(土) 11月28日(土) 目標 10名(令和7年度 9名)

(6)「大人の自由研究1ーカラムシから繊維をとって、織物をつくろうー」

7月11日(土) 目標 3名(令和7年度 1名)

(7)「大人の自由研究2ー塩引きをつくろうー」

11月22日(日) 11月29日(日) 12月6日(日)の各日曜 募集各6名

目標 18名(令和7年度 11名)

2. 県内外の遺跡や資料館をめぐることで、遺跡や考古資料への関心・理解を深める。

(1) 春の遺跡めぐり 5月31日(日) 奥会津の展示施設と文化財をめぐるです。

神指城跡、昭和村からむし工芸博物館、沼沢沼、東北電力奥会津水力館、荒屋敷遺跡、三島町交流センター山びこ、やないづ縄文館。

(2) みる・きく・ふれる遺跡の旅 6月27日(土)～28日(日) 埼玉県の遺跡・展示施設をめぐるです。

案内人の芹澤氏から示された行程概要はつぎの通りです。

- 6月27日 山形県庁(6:00)→山形駅(6:10)→考古資料館(7:00)→東北道羽生 IC
→八幡山古墳→昼食(茂美の湯)(11:45)→行田市郷土博物館(忍城跡本丸)(12:35)→埼玉県史跡の博物館(13:20)→さきたま古墳群(14:00)→湯本天然温泉(茂美の湯)(16:00)
- 6月28日 茂美の湯(8:15)→吉見町文化財センター・吉見百穴(8:50~9:30)→埼玉県立嵐山史跡の博物館・菅谷館跡(9:55~11:10)→昼食(11:10~11:45)→鉢形城歴史館・鉢形城跡(11:45~12:25)→本庄早稲田の杜 Museum(13:00~13:30)→本庄児玉 IC(13:30)→考古資料館(18:15)→山形駅(19:05)→山形県庁(19:12)

(3) 秋の遺跡めぐり 10月24日(土) 宮城県白石市、角田市、丸森町の遺跡と文化財をめぐります。

3. 考古学への関心の裾野を広げる事業を行う。

(1) 特別テーマ展関連講座「出土遺物(考古資料)に見る文字資料」を開催。

当館学芸員が特別テーマ展に展示する資料について7・8月の日曜日に2回に分けて解説・説明する。

第1回(7月26日(日))

・松本学芸員

第2回(8月2日(日))

・伊藤学芸員

4. 企画展のテーマに沿った考古学セミナーを開講し、企画展講演会も開催する。企画展の展示資料について理解を深めて頂くことを狙いとする。

※第28期考古学セミナー 「旧石器時代の山形」

演題は仮題

10月11日(日) 渋谷 館長 「山形県内の旧石器時代遺跡の調査経過について」
「山形県の後期旧石器時代前半期について」

10月18日(日) 鹿又 喜隆氏 「山形県の後期旧石器時代後半期イフ形石器を持つ石器群について」

10月25日(日) 大場 正善氏 「山形県の細石刃石器群について」
石井 浩幸氏 「山形県の尖頭器を持つ石器群について」

※第34回企画展記念講演

11月15日(日) 講師：會田 容弘氏(郡山女子短期大学教授)

演題「加藤稔先生と山形県の旧石器研究」

5. 出前講座について、具体案を提示して積極的にPRし、依頼があった場合は適宜対応する。

(1) 講演会等の講師要請に対しては、館長・学芸員による出前講座を実施する。

(2) 体験学習等の講師要請に対しては、学芸員・館職員による出前講座を実施する。

る。

6. 各種団体との連携事業を行う。

- (1) 「うきたむ風土記の丘考古資料館自主事業委員会」との連携。
- (2) 「うきたむ考古の会」共催事業として遺跡の旅を行う他、他事業においても連携を取る。
- (3) 「うきたむ学講座実行委員会」との共催事業として「うきたむ学講座」を開催する。
 - ① うきたむ学講座 全2回
- (4) 「山形考古学会」共催事業として山形の考古資料検討会を実施する。
- (5) 考古学関連の講演会やシンポジウムの共催等に随時対応する。
- (6) 「東北文化の日」協賛。

♥博学連携事業

1. 授業・行事での利用

- (1) 利用の申し出があった場合は、事前に打ち合わせの上（利用打合せ書の提出）、見学・体験学習（出前講座含む）を実施する。
 - ① 見 学 館内展示、歴史公園の復元住居・古墳、周辺の遺跡等。
 - ② 体験学習 縄文服着用、火おこし、弓矢・石器・勾玉・ブレスレット・布づくり。
- (2) 各事業内容について適宜見直しを行い、授業や行事に取り入れやすいよう工夫する。

2. 夏休み中の事業

- (2) 自由研究相談(夏休み期間中随時)

3. 博物館学実習

体験や実技を通し学芸員として必要とされる知識・技術等の基礎・基本を修得することを目的に、希望する大学生を受け入れて行う。

- (1) 期 間 7月～9月の1週間
- (2) 募集人員 5名程度

4. 教育目的に沿った中学・高校・大学の団体見学の受け入れ

より深い学びの場としての当館利用の促進を図る。

5. その他

教育関連団体ほか、各種団体に会場を提供するなど、学校教育・社会教育関係者との情報交換を密にする。

♥印刷物の発行

1. 館報 6月発行(第67号)・12月発行(第68号)。
2. 年報 令和8年4月発行。
3. 特別テーマ展図録 6月発行
3. 企画展図録 10月発行(ポスター・チラシは8月に配布)。
4. 催し物案内 令和8年3月発行。
5. 各事業案内チラシ等 随時。

♥調査相談・借用依頼対応

当館所蔵資料の借用、利用依頼に対して随時対応する。所蔵以外の資料についても、調べたり相談先を紹介したりするなどして、できる範囲で対応する。

事務局からのお願い

令和8年度館事業「親子で手形をつくろう」の 開催にかかるボランティアの募集について

当館事業で最も人気が高い「赤ちゃん手形」は今年度は「親子で手形をとろう」新型コロナ前には1,000個を越える事業規模でしたが、コロナ後は開催期間の短縮と人数制限を行いながら開催してきたところですが、5類移行に伴い、すべての制限を解除して開催することといたしました。

令和8年度は5月2日(土)から5月6日(水)までの5日間の短期集中開催とします。令和7年度にも会員の皆様にボランティアとしてお手伝いいただきましたが、今年も募集することと致しました。各日とも9時30分から16時までとなっています。なお、お手伝いいただける方には、些少ですがお礼をお渡しいたします。

何かとご多忙のこととは存じますが、お手伝いいただける方は、電話で、館にお手伝いしていただける日をお知らせくださるようお願いいたします。なお、現段階で5月4・5・6日が不足しています。

遺跡の旅の参加者募集

当会が共催する「みる・きく・ふれる遺跡の旅」、令和8年度は「埼玉県」の史跡や展示施設をまわります。案内人は今年も芹澤清八氏です。現在予定している行程は次ページのとおりです。募集人員は18名、最少催行人数は15名とさせていただきます。参加費は首都圏の宿泊費が高騰しており、また、バス代・運転手経費の値上げも続いています。参加者18名の現段階の試算で旅行代金は**39,000円**程度と見込んでいます。今後、増減があるかと思えます。旅行代金は5月下旬に会員の方にお送りする案内チラシでお示しします。参加をご希望の方は詳細な行程・代金を記した正式案内の前でも予約を受付しますので、館まで連絡ください。電話、e-mail、FAXでお知らせください。

令和8年度遺跡の旅行程(6月 27～28 日)

4.8 現在

指定	史跡・施設名	所在地	着時刻	発時刻
	山形県庁	山形市松波		6 : 0 0
	山形駅	山形市香澄町	6 : 1 0	6 : 1 2
	考古資料館	高島町大字安久津	7 : 0 0	7 : 0 5
	都賀西方 PA		1 0 : 1 0	1 0 : 1 5
	羽生 IC		1 0 : 4 5	1 0 : 4 5
県史跡	八幡山古墳	行田市藤原町 1 丁目 27-2	1 1 : 1 5	1 1 : 3 5
	昼食会場(茂美の湯)	行田市佐間 1456-1	1 1 : 4 5	1 2 : 2 5
	行田市郷土博物館	行田市本丸 17-23	1 2 : 3 5	1 3 : 1 0
	埼玉県立史跡の博物館	行田市埼玉 48-34	1 3 : 2 0	1 4 : 0 0
特別史跡	さきたま古墳群	行田市埼玉 48-34	1 4 : 4 0	1 6 : 0 0
	ハナホテル	行田市佐間1丁目 11	1 6 : 0 0	1 6 : 5 0
	湯本天然温泉 茂美の湯(夕食)	行田市佐間 1456-1	1 7 : 3 0	1 9 : 3 0
	ハナホテル(宿泊)	行田市佐間1丁目 11	1 9 : 3 5	8 : 3 0
	吉井町埋蔵文化財センター	比企郡吉見町北吉見 321	8 : 5 0	9 : 1 0
国史跡	吉見百穴	比企郡吉見町北吉見 321	9 : 1 0	9 : 3 0
	埼玉県立嵐山史跡の博物館	比企郡嵐山町菅谷 757	9 : 5 5	1 0 : 3 0
国史跡	菅谷館跡	比企郡嵐山町菅谷 757	1 0 : 3 5	1 1 : 1 0
	昼食会場			1 1 : 4 5
	道の駅おがわまち	小川町小川1220-1	1 1 : 5 7	1 2 : 1 0
	埼玉県立川の博物館	大里郡寄居町小園 39	1 2 : 3 8	1 2 : 5 5
	本庄早稲田の杜 Museum	本庄市西富田 1011	1 3 : 2 5	1 3 : 4 5
	関越道本庄児玉 IC		1 3 : 5 0	1 3 : 5 0
	高速料金(中型車)			
	都賀西方 PA		1 4 : 5 0	1 5 : 0 0
	考古資料館	高島町大字安久津	1 7 : 5 5	1 8 : 0 0
	山形駅前	山形市香澄町	1 9 : 0 0	1 9 : 0 2
	山形県庁	山形市松波	1 9 : 1 2	

東北情報館



開館 25 周年

記念特別展 『上杉謙信と川中島合戦』

入館料 一般／800 円 高・大学生／500 円 小・中学生／300 円

4月18日～6月21日 米沢市上杉博物館 TEL: 0238-26-8001



『上杉謙信公のよそおい』

入館料 一般／700 円 高・大学生／400 円 小・中学生／300 円

3月14日～7月7日 上杉神社稽照殿 TEL: 0238-20-6295



上山城春の企画展 『上山藩のさむらいが持っていた刀剣と武術伝書』

入館料 一般／600 円 大・高生／500 円 小・中学生／200 円

4月25日～6月14日 上山城郷土資料館 TEL: 023-673-3660



企画展 『令和 7 年度発掘速報展』

入館無料

4月25日～6月28日 いわき市考古資料館 TEL: 0246-43-0391



『ふくしまの縄文・弥生時代—只見川流域の遺跡—』

入館無料

4月4日～5月10日 まほろん TEL: 0248-21-0700



世界遺産登録 5 周年記念特別展

『北の縄文世界—円筒土器文化をさぐる—』

入館料 一般／800 円 大学生等／400 円 高校生以下／無料

4月11日～6月21日 三内丸山遺跡センター TEL: 017-766-8282



『盛岡を発掘する—令和 7 年度調査速報—』

入館料 一般／300 円 高校生等／200 円 小・中学生／100 円

2月7日～5月17日 盛岡市遺跡の学び館 TEL: 019-635-6600